



今回は、本年度の取組④についてお願いをします。

本年度の具体的取組

- ① 幼児が「やってみたい」と思い、人とつながりながら主体的に遊ぶような環境をつくり援助を行う。
- ② 幼児の生活や遊びがより充実するような義務教育学校との交流を行う。
- ③ 基本的生活習慣が身に付くように「きらきらカード」の活用や指導を行う。
- ④ **友達や異年齢児と関わり、互いの思いに気付くような「ピア・サポート」の実践を行う。**
- ⑤ 昭和地区の自然に触れる園外保育と地域の人との交流を実施する。
- ⑥ 親子で地域(居住地を含む)を知ることができるよう地域行事の参加を促したり園外保育の様子を伝えたりする。

ピア・サポートとは、仲間同士支え合うことを意味します。不登校の児童・生徒の数が増えた頃、総社市教育委員会は、困ったことを友達に伝えたり、困っている友達に気付き支えたりすることができるように子どもたち同士のつながりを強くしようと考え、取組を行ってきました。そのために SEL (ソーシャル アンド エモーショナル ラーニング 社会的なスキルを感情とともに身に付ける学習) も取り入れてきました。例えば、人に話しかける時、どのような距離感で、どのような言葉で、表情であれば相手が心地よい気持ちになるかと実践して体感し、それを生かす場として友達や異年齢児と関わる場(ピア・サポートの活動)を計画します。社会的なスキルを言葉だけで教えるのではなく、行動と感情を結び付けて指導することが特徴です。異年齢との関わりの方が指導しやすい点もありますが、同学年の友達同士、頼ったり、頼られたり、支え合ったりする関係になることを願っています。園内で行っているピア・サポートの一部を紹介します。



ほし組が自分の植木鉢にアサガオの種を蒔いて1週間後、芽が出て喜びました。「はな組は植木鉢に土を入れるのは難しいと思うから手伝ってほしい」とほし組の子どもたちに頼むと先週の経験を思い出し、こぼれないように土を入れ、5つ穴をあけるところまで手伝いました。「この穴に種を入れて」「そっと土をかけるよ」と教えています。はな組は興味をもってほし組の手元を見えています。

そら組が、去年の経験を思い出し、サツマイモの苗を植えました。次ははな組とペアになり「苗をくださいって言うんよ」「線の中に置いて土をかけてね」「(苗を)起こしたらいけんよ」と教えています。すべてしてはいけない、どの活動ならできるかなと考えて対応する力をつけてほしいです。はな組はしてもらってうれしかった気持ちを覚えていて、ほし組、そら組になってほしいです。



きりとりせん



そら組が、色紙を使って七夕飾りを作っています。教師の説明を聞いて作り始めました。線の上を切り、紙を広げるところでうまく広げることができなくなりました。同じ机に座っている友達に「手伝って」と頼んだり、「手伝おうか」と声を掛けたりしています。自分の思いを出すことができる友達関係となるように、またどこを手伝うのかを見守っていきたいと思います。

読まれた感想・ご意見などありましたら教えてください。園長だより5 ()組 園児名()